

2024年8月28日

大阪支社新人歓迎会スピーチ予稿

代表取締役 石和田 雄二

◎ 今期入社の新入社員と配属、技術教育の成果について

5月末に配属方針の調整を行い、共同演習を経て7月初に部門配属を実施した。今年の新卒入社は104名、大阪支社には院卒10名を加え30名を予定していた。東京勤務希望者が多く、政策的な構想案は勿論、重要だが、本人の意思を優先し、結果的に、名古屋と同数の17名が大阪支社配属となった。優秀な素材が多いが、今年度は前年から実施していた新人教育内容の充実があり、やる気のある人は大きく伸びたと感じている。会話型授業基盤のMoodleをベースに仮想実行環境のWSLやDockerも活用、今、皆さんと一緒に大阪で仕事をしている黒川さんが会津大学でIT教育の実践研究で積上げて来た多くの成果、教材や演習問題を活用、コースウェアを体系化、当社の新たな技術教育基盤を作ってくれたからだ。

◎ 大阪支社はこれから発展する職場、今日は、新しい仲間、皆さんの歓迎会だ。

7月以降、新人の皆さんはそれぞれの現場で専門教育を受けて来たので、職場や実業務に馴染みつつあると思うが、今日は大阪支社として皆さんの歓迎会だ。部屋が狭いので幹部だけの出席になるが、皆さんは大阪支社を支えてゆく仲間、普段聴けないことも自由に質問、将来像を語り、将来への夢を膨らませて欲しい。社長である私は、本社、月島、名古屋支社と各部門での新人歓迎会に招いて貰い、スピーチをしてきましたが、大阪支社では8月終盤の今日、大阪支社の月次の業務レビューに合わせ、新人歓迎会を実施して貰うことにした。大阪支社での私の立場は、招待される立場でなく、支社長として皆さんを迎える立場にある。

まず始めに、地域出身者も多いとは思いますが、大阪支社を選んでくれたことを感謝する。自分の成長の場として当社3拠点、3本の柱として大阪はこれから大きく成長する支社で、皆さんを迎え、今漸く支社は社員100名を超える状況になる。来年は大阪万博も始まる。皆さんと一緒に大阪支社の未来を拓いて行きたい。

◎ 支社拡大は私の責務であり夢、 3年で200名、5年で超300名を目指す。

自分は東京出身で藤沢在住、関西には疎いが、いつも未知の異文化に憧れて来た。企業も人も、経済的安定と生活的な安定とは別、前者は発想豊かに組織が挑戦を続ける企業文化が必要で、多様性と共に組織内部で競争原理が働く必要がある。その為には組織文化の主体性と開放性、業務課題のフロンティアが常に必要だ。ITサービスは特に、専門分野を磨くだけでなく新分野新技術への挑戦が必要だ。将来構想から考えても東京一極集中では閉鎖的でリスクに弱い。官庁や研究所大学も多いが、民間は本社が中心、製造や流通でも現場・現物・現実に学ぶ機会が限られており、先端技術のキャッチアップには良いが、モノ造りの現場と共に、活力ある消費活動の中で時代を拓くフロンティアとして社会実装の場が必要だ。当社は高度技術と共に伝統文化のある東京、名古屋、大阪の3極で未来を拓く。

◎ 大阪支社は、今やクラウド技術で当社の中核組織となっている。

4年ほど前、今のTSSの前身会社から倉庫管理システムWMSの大規模開発の一括受託を受け、東京本社から今の潘事業部長をトップにベテランも送り込み、地元の若手中心に大規模Projectを編成、これが大阪支社の再スタートとなった。今はITサービスの大きな技術転換期であり、応用面のIoTやAIもそうだが、クラウドをベースにした新基盤技術は、データの時代を拓くと共に上記応用面を支える意味でも、より大きなITサービス産業全体を変える技術変革期にある。前述のWMSの一括開発で育った管理者や若手技術者が、このProjectを終え、多少の過渡期の準備や停滞を超え、時代の新業務に順次参入することになった。本社から大阪支社転勤とした潘事業部長と相談、大阪支社はこれからの時代の主流業務、クラウド移行の基盤再構築案件を受注活動の中心に置くこととした。たまたま、運が良かったとしか思えないが、BIPROGYの物流大手G社の基盤再構築、志渡澤顧問紹介によるリボルブS社の薬卸S社の基盤構築案件に参入、どちらも調査以降の年単位の大規模案件だが、無事に終えて人材が一気に育った。

グーグルのGCPをベースにした基盤再構築やAWSによる基盤構築を経て若手の優秀な人材が育ち、基盤系の専門技術分野の手薄な状態が続く中、コロナ後のDX案件が本格的に動き出しており旧システムの基盤再構築案件は充実している。仕事に応じて人材補給、若手で優秀な人材の戦略的投入もあってシステム構築や

運用のモダナイゼーション関連では第一線を行くサービス組織に成長している。今回、そうした背景もあり、BIPROGY 社の重要な戦略 Project、H 銀行の金融最新基盤を構築する開発も、基盤系だけは大阪支社中心に担当することにした。

日本の金融システムは、IBM も富士通も、NTT データも各社の中核事業として開発してきたが、そのミッションクリティカルな運用の厳しさから、一部は未だメインフレーム運用の顧客も多い。そうした中、BIPROGY は MS と共に日本で最初にオープン系で多くの金融機関の勘定系を安定稼働させて来た実績がある。それが今、クラウド 2 重構造下、ミッションクリティカルと共にセキュリティ面も最大限保証、アセットを活用した本格的モダナイゼーションに取り組もうとしており、これは、今後の該社の金融システムのひな形として横展されるものだ。

◎ IT サービスの素晴らしい環境で自らを磨き、大きく成長して下さい。

今や大阪支社は、皆さん新人 17 名を加えて漸く、社員 100 名の組織に成長した。クラウドネイティブなシステム基盤のモダナイゼーションは、マイクロサービスやローコード、制御系としての Docker や Kubernetes だけでなく、次世代 IT のユーザー中心の開発方式、アジャイルや生成 AI を活用して旧コードのアセットを Java など最新のコードに変換するコパイロット環境、組織としての縦割りの課題を解消する DX にも通じ、IT サービスのオフラインビジネスにも繋がる。次代を担う当社の若い技術者がこの環境で成長して行くのは素晴らしいことだ。

◎ 最後に、これから現場の実業務に入る新人の皆さんに、2 つの言葉を贈る。

今、米国では大統領選挙が 11 月 5 日の投票日に向けて愈々終盤に向っているが、最終結果は解らないが、高齢のバイデン大統領に代わって、急速にラストベルト地域で、共和党トランプを超えた人気を集めている民主党のカラマ・ハリスが、前回、ヒラリークリントンも破れなかった「ガラスの天井：Glass Ceiling」をも突き破って、米国大統領になる可能性が高い。しかも黒人系の移民の子孫である。

アメリカの公民権運動の指導者、非暴力抵抗を通じて人種平等を訴えた歴史的人物、黒人のマーチン・ルーサー・キング師の言葉を始めに贈りたい。

「長い階段の全体が見えなくても良い。大事なのは、目の前にある一段を上ることだ。」

始めて実業務を担当する場合、知らないことが多く尻込みすることが多いが、優秀な先輩でも、初めは知らないことが多かった筈だし、実際にやることで経験を積めるものだ。しかも当社の主流である先進的な技術は、旧来の技術者に馴染み難く、ネット上も含めて実務型の教材も多いので、論理的な思考能力があれば、若い人の方が有利な面が多い。第一歩を踏出す勇気が大切であるということだ。

そうはいっても、現実はそんなに甘いものではない。現実には仕事が少し進む中で必ず、難題という壁に突き当たるが、そこで怯んだり止めたりしては、ダメだ。フォード自動車の創業者、ヘンリーフォードに次の言葉がある。

「飛行機は向い風があって飛立てるのであって、追い風に運ばれる訳ではない。」

壁に出会った時は、先輩達に学び、自ら工夫して壁を超える意思と熱意が大切だ。それを越える努力の中で、自分も仲間達も成長することは、絶対的な経験則だ。その先に新しい豊かな未来が開けることを信じて、頑張るって欲しい。

仕事は人を育て、人を磨き仲間と共に新たな価値を生み、社会の役に立つものだ。これから担当するひとつ一つの仕事を通じて大きく成長してほしい。 (了)